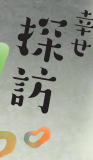


里島と里山に広がる「おもてなしの心」

懐かしさと優しい心が息づく



瀬戸内海に浮かぶ、
「里島」にはお宝
いっぱい♪

河野水軍の歴史に
育まれた北条地域

地元住民の手で再生された
旧遍路宿「坂本屋」



松山の海の玄関口として栄えた歴史をもつ三津浜。古くは「風早」と呼ばれた北条。瀬戸内海に浮かぶ忽那諸島。そして久谷地区をはじめ市内に広がる遍路道。懐かしさと優しさがあふれるまちを一回りして心の洗濯を。

松山の名物・名所づくしの民謡「伊予節」に唄い込まれている「三津の朝市」で知られる三津浜。目の前の海で水揚げされた魚介類を取引する朝市の歴史は、室町時代に始まったといわれています。現在は水産市場の年4回の一般開放日に市民が気軽に買い物ができ、市民の台所として愛されています。そんな三津浜のまちには、ちよつとレトロな建物や倉庫などが残り、三津浜内港を結ぶ「三津の渡し」も戦国時代から今に受け継がれています。また、高縄山から瀬戸

内海へ向けて広がる北条地域は、今から約800年前に伊予の豪族・河野氏が拠点を置いた場所。源平合戦では源氏の味方について河野



三津の渡しは地元の足としても大活躍しています！

Mitsuhamma has a history of having thrived as the gateway port of Matsuyama. Visitors can fully enjoy the local sea-related culture by seeing Mitsuhamma, as well as the Hōjō district and the Kutsuna islands. On the other hand, in the Kutani district through which many pilgrims have passed through over history, the culture of osettai (custom of giving "alms" to pilgrims) is firmly established and still practiced.

水軍を指揮し、元寇の際にも敵からの防衛で活躍しました。河野氏が創建した善応寺や海城があった鹿島など、その足跡は随所に残されています。これら海辺のまちの沖合に浮かぶのが、忽那諸島。有人島の興居島、釣島、睦月島、野忽那島、中島、怒和島、津和地島、二神島、安居島は豊かな自然やのどかな風景、かんきつや新鮮な海の幸などの宝庫となっています。またサイクリングやトライアスロンなどスポーツイベントも開催されています。

一方、松山の南部に位置し、四国遍路の松山側入口にあたる久谷地区は、浄瑠璃寺や八坂寺を中心に遍路文化が残り、旧遍路宿の再生など里山ならではの取り組みが行われています。

■ 四国遍路・松山八ヶ寺とは

四国遍路は弘法大師空海が開いた巡礼の道。四国島内に点在する空海ゆかりの88の札所を巡ることで、それぞれのご利益を願う祈りの道でもある。松山市にはお遍路さんの始祖と呼ばれる衛門三郎ゆかりの石手寺など四国の自治体で最多となる8寺が集中。市内の札所を巡って、お遍路を体験しませんか。



① 鹿島

北条沖合400mのところに浮かぶ周囲1.5キロの小さな島。春は桜、夏は海水浴、冬は釣りや四季折々の楽しみがあり、島の名前の由来でもある鹿も生息している。

■ 問/ ☎089-948-6556
(松山市観光・国際交流課)



③ ターナー島(四十島)

高浜港の沖合700mのところにある3つの岩礁から成る小島。小説『坊っちゃん』にも登場しており、作品の一幕からターナー島の愛称がつけられた。国の登録文化財(名勝)。



④ 忽那諸島

松山沖に浮かぶ30以上の島々から成る忽那諸島には、中島や興居島など有人島9島が含まれている。海水浴やマリンスポーツ、釣りが楽しめ、新鮮な魚料理やかんきつ類も名物となっている。

② 高縄山・腰折山

標高986mの高縄山と標高500mの腰折山は、ともに自然の宝庫。腰折山の登山道にはエヒメアヤメやイヨスミレが自生しており、両山ともに瀬戸内海を一望できる眺望も自慢。



河野氏ゆかりの古刹
善応寺



映画のロケ地にもなった
興居島の恋人岬



かつて海の玄関口だった三津浜。
風情ある建物も残っている



年に4回開催される
三津の朝市「旬・鮮・味まつり」



衛門三郎の伝説が残る
ハツ塚群集古墳



トライアスロン中島大会は夏の風物詩

コラム
Column
ここが いい、加減。

おもてなしの心で
里島の活性化を



トライアスロン中島大会実行委員長
佐伯 真範さん

昭和50年代までは、県内有数の海水浴場だった姫ヶ浜。そのにぎわいを取り戻そうと始まった「トライアスロン中島大会」は、島の活性化が一つの目的でした。前夜祭で島の人々が選手をもてなし、競技当日もサポート。比較的にコースが平坦なので初心者の方もトライしやすい大会だと思えます。島人との交流を楽しみにリピーターになってくださる方も多いのでこれからも、多くの方が参加しやすい大会として受け入れ体制も強化していきたいと考えています。